

「学校評価報告書」

1 令和5年度 学校教育目標および重点目標・教育課題

【学校教育目標】 ・自ら学ぶ ・友と学ぶ ・仁科の里に学ぶ	教育課題
	○経営理念： <u>互いの尊厳を守る学校</u>
	○教育課題： <u>自己調整学習力・自己有用感の育成</u>
	重点目標 1 学びづくり ○主体的・対話的で深い学びを
	重点目標 2 なかまづくり ○子ども一人一人が主役となる学びの場を

2 本年度の「成果と課題」および令和6度に向けての「向上策・改善策」

重点	成果と課題	向上策・改善策
学びづくり	対話を基盤とした協働の学びに向けて、「単元の核心」を明確にした単元構成、子どもが自分事として考えたい「問い」の提示、思考の流れを外化するマインドマップの活用を切り口に、LCで検討し一人一公開授業を通して授業改善に取り組んできた。特に「単元の核心」に迫るためには、その単元で身につけたい見方・考え方を明らかにすることが大切であることに改めて気づき、教材研究を丁寧に行おうとする先生方の姿が見られるようになった。また、1学期の教職員のアンケートでは、授業の振り返りができていないことが明らかになったことから、2学期からはどの教科でも振り返りでマインドマップを活用する意識してきたことで、子ども自身が自分の学びを振り返り次時に向けた問いや願いを見いだそうとする姿が見られるようになってきている。今後は協働の学びの更なる充実に向けて、3つの思考（比較、関連、分類）を踏まえた教師の支援の質を高めていくことが必要である。	授業者全員に指導者がつく公開授業等、今年度の取り組みを引き続き継続すると共に、今年度キーワードとなった「単元の核心」「問い」「今日の結び目」等について、更に質が高まるよう研究を進めていく。また、協働の学びの更なる充実に向けて、子どもの言葉に耳を傾け、子どもが何を学んでいるかを捉え、その子に適切な言葉かけであったり、子ども同士をつなげたりするなど、その子の学び単元の核心に迫るものになっているかどうかを子どもの姿から考えることを通して、本校で目指す「協働の学び」について理解を深めていく。さらに、教育課題を基盤とし「見方・考え方」で繋ぐ教科横断的なカリキュラムマネジメントについてLCで話題にしていきたい。子どもたちへも「協働の学び」の学び方や目指す姿について共有し、学校全体で「協働の学び」を同じベクトルで推進していく。
なかまづくり	「協働の学び」を中心としながら、成功体験や分かる・できる喜び、友との学びを積み重ね、また、自己有用感の育成に取り組んできた。児童アンケートで「自分には良いところや得意なことがある」について、前向きな回答をした子どもが多い。普段の授業でその子の頑張りを認め励ましクラスみんなで賞賛する学級づくりができてきているからだと考える。しかし、わずかではあるがマイナス評価の子どもがいる現実をしっかりと受け止め、更なる方策を検討するとともに、すべての子どもが安心して学べる学校づくり図っていく必要がある。また、自分の弱さを語り、その気持ちが分かる学級集団づくりを進めていく必要がある。	子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、すべての教職員が、まずは、ほめ、認め、受け止めあう中で、真剣に向きあうことができるようにしていく。また、どの子にも前向きな興味・関心をもっているサインを送り、どの子も大事であることを教職員から発していく。そして、子どもをほめる際は、具体的様子や伝えたり、理解を求めるときには、具体的な言葉で、細かく、子どもたちが納得して理解できるようにしたりしていく。こうして子どもの心理的安定を図りながら、教育活動全体で、子どもたちと目標を共有して支援し、達成感も共有し、児童の自己有用感を育てていく。また、子どもの分らなさや耳を傾け、その思いに教職員が寄り添い、改善に向けた取り組みを共に歩んでいく。

3 学校長による「経営ビジョン」に対する振り返り（自己評価・総合評価：別紙参照）

4 学校運営協議会長による学校の「重点目標」への取り組みに対する評価（学校関係者評価：別紙参照）